

閉会挨拶

常務理事の下野です。

本日は大変貴重なご講演をいただき、またパネルディスカッションを通じた活発な質疑応答とWEB参加及び会場の参加者からの質問にも答えていただき、理解が深まったと思います。

時間が限られた中で、盛りだくさんの内容で本当にありがとうございました。

本日ご登壇いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

ちょうどWedgeの12月号で、海洋国家日本の厳しい実情が紹介されるとともに、「海事産業は日本の生命線」であるとして「Sea Power を国家戦略に」との特集記事が載っていました。

今回講演された皆様あるいは参加している皆様は、多くの方がグローバルサプライチェーンの混乱を目の当たりにされて、この特集記事の日本の貿易を支える「SEAPOW を国家戦略に」という思いに共感されたのではないのでしょうか。わたしも同じです。

また、中井社長がとくに指摘されていたように、まだまだ地球規模の環境問題、さらにはパナマ運河の水不足問題など、世界はますます混乱の様相を深めています。また、国内的には2024年問題も加わり、コンテナ輸送を取り巻く環境について多くの方が危機感を感じていると思います。

このような中、福山客員研究員が指摘していたように、国際競争にさらされている荷主企業の皆様においてはますます海運との連携協調が不可欠になっているように思います。

本日、遠藤様からブラザーグループを含めた荷主企業の課題解決に向けた取組、武山様からはインランドコンテナデポとCRUを活用した物流効率化の取組、といった先進的な取組の紹介がなされましたが、個々の企業の置かれた状況や環境は異なり、荷主企業や物流企業がそれぞれ今後どのように取り組んでいけばいいのか、についてはまだまだハードルもあり、知恵を出していかないといけないことが多いように思いました。

今後は武山様が指摘されたとおり、複数の企業が連携し、また官民連携で取り組んでいく必

要性が大きいのではないかと思っただ次第です。

日本の国際海上輸送をはじめ多くのサプライチェーンが抱える課題解決に向けて、今回のセミナーが契機となり、ますます多くの方々の活動や連携・協働に結び付いていくことを期待したいと思います。

当センターとしましても、今後、国際海上輸送に関する動向の把握・分析、そして多くの海運関係の方々が抱える課題等に関して調査研究活動を進めて参る所存ですので、当センターの取組についても期待していただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。